

平成28年度 芸術による地域創造研究所 活動報告書

所長: 渡邊 晃一

研究目的 芸術による地域文化の創造にする学際的研究

研究メンバー

< 研究代表者 (研究所長) >

渡邊晃一

< 研究分担者 (プロジェクト研究員) >

人間発達文化学類	天形健
人間発達文化学類	嶋津武仁
人間発達文化学類	初澤敏生
人間発達文化学類	澁澤尚
人間発達文化学類	小島彰
行政政策学類	久我和巳
行政政策学類	田村奈保子
経済経営学類	後藤康夫
うつくしまふくしま未来支援センター	天野和彦
人間発達文化学類	名誉教授 澤正宏
共生システム理工学類	名誉教授 星野 珉二

< 連携研究者 (プロジェクト客員研究員) >

いわき市立美術館・館長 佐々木吉晴
 福島県立博物館・主任学芸員 川延安直
 福島県立博物館・主任学芸員 小林めぐみ
 福島県立美術館・主任学芸員 増淵鏡子
 福島県立美術館・主任学芸員 國島敏
 郡山市立美術館・主任学芸員 杉原聡
 東京学芸大学・准教授 笠原広一
 会津大学・教授 柴崎恭秀
 福島県立医科大学・非受勤講師 後藤宣代
 桜の聖母短期大学・非常勤講師 安室可奈子
 宗像窯窯元 / 陶芸家 宗像利浩
 NPO 法人コモンズ・理事長 中里知永

研究活動内容

I 福島大学芸術による地域創造研究所について

1. 研究テーマ

芸術による文化活動を通じた街づくり
 地域の活性化に関する実践的研究

2. 研究概要

芸術による地域創造研究所は、学系の専門的領域を横断した学際的な研究を推進し、県内の文化施設の研究員によって構成される複合的な組織である。

研究内容としては以下の7件があげられる。

- (1) 芸術文化による街づくりの必要性に関する研究
街づくりにおける芸術や文化の意義に関する理論研究
- (2) 芸術文化を通じた街づくり・地域活性化事例研究
国内、国外の事例を広く収集し、成功要因に関する分析研究
・ 芸術企画のアドバイス
- (3) 県内モデル地域における文化政策研究
文化資源の洗い出し、文化資源のネットワーク化に関する政策研究
・ 地域産業と連携した研究開発
・ 新たな商品デザインの開発支援
- (4) 芸術イベント企画・運営による街づくりの実践研究
モデル地域における文化政策と芸術イベントの展開
・ 実践研究「福島現代美術ビエンナーレ」
・ 実践研究「風と土の芸術祭 / 会津美里」
- (5) 学生の「芸術企画演習」を通じた学習効果の検証
- (6) 東日本大震災後の復興における文化・芸術支援活動
- (7) 芸術文化による国際交流

II. 平成 28 年度の研究報告

1. 主な研究テーマ

(1) プロジェクト研究推進経費「二本松市の伝統と芸術文化による地域創造の学際的研究」

(2) 福島県商工会館寄付金事業「二本松市と福島大学の連携による文化政策」

(3) 二本松振興公社からの委託事業「重陽の芸術祭」

(4) 「福島ビエンナーレ 2016」

芸術文化振興基金、アサヒ文化財団
花王からの助成

(5) 磐梯熱海温泉支援事業

・俳句灯籠（華の湯から足湯へのストリート）

・観光案内板（沼上瀑布・発電所、旧中山宿スイッチバック、竹之内発電所）

・「はぎひめふれあい通り」の一体感のあるアート・ストリートの創造支援

(6) 東日本大震災総合支援プロジェクト

福島の震災復興シンボル「鯉アートのぼり」

2. 研究概要

芸術による地域創造研究所は「まちづくりと芸術プロジェクトの連携」を研究の支柱として掲げ、伝統文化と地域創造の育成を図るうえで、大学の知的財産を広く社会に寄与し、県内の文化施設の研究者と共に学系の専門的領域を横断した複合的・学際的な研究を推進してきた。

平成 28 年度は東日本大震災後の復興活動として、福島の拠点となる文化的な機関との連携活動を支柱として、二本松市と協働で「まちづくりと芸術プロジェクトの実践研究」を推進した。「重陽の芸術祭」「福島ビエンナーレ 2016」などの福島県における芸術文化活動のプロジェクトを実施する中で、国際的な交流と専門的領域を横断した学際的

な研究を展開した。福島大学と福島県の博物館、美術館等の文化施設を拠点とした教育、文化機関との連携事業を多数行った。

「福島ビエンナーレ」は 6 年前から福島で始動し、ビエンナーレ（隔年）で開催されてきた芸術諸活動の企画である。福島大学絵画研究室の大学院生や卒業生が中心となって、2004 年から地域住民との協働により開催されてきた。地域住民との協働により「福島の展望を拓く活動」を築きあげ、幅広い芸術活動に触れる機会や、多様な美術を支援し、地域住民との協働により地域文化を活性化させる一役を担ってきた。

東日本大震災後、福島県は原子力発電所の事故によって、伝統的な文化が失われつつある。地域の芸術活動の支援も少ない状況にあった。2012 年以降の「福島ビエンナーレ」はあらたな「FUKUSHIMA」のイメージ作りの一端を担ってきた。福島の伝統文化と福島を拠点にした若手アーティストを支援し、幅広い世代の人々が興味、関心を抱く最先端のアート（絵画、彫刻、工芸、インスタレーション、ダンスや詩のパフォーマンス、ビデオアート、アニメーション、映画など）に触れる機会や、人々が集い、新しい交流と積極的交信を保つ場となり、地域文化を活性化させる一役を担ってきた。県内外はもとより国際的なアーティストの支援を受け、多種多様な芸術の創作活動、鑑賞活動、体験活動（シンポジウムや講演会活動、ワークショップ）を紹介する中で、市街地の活性化と周遊性を高めると同時に、福島の地に国際交流を誘発している。

2012 年は「SORA」をテーマに福島空港と空港公園で開催し、震災後の福島発信の芸術企画として国内外に広く知れ渡り、一ヶ月間に国内外から 45,000 人が訪れました。

2014年、10年目の節目となる年には、会津地方、湯川村と喜多方市を拠点に、「お米」をテーマに開催した。会津にとって稲作文化は、地域の風景を形作り、豊穰の祈りを捧げる伝統芸能や神社仏閣の文化を育んだ精神的な基盤である。飯豊山と磐梯山から流れる川の流れば田を潤し、出来上がったお米は、酒、味噌になって、地域の文化を形づくってきた。芸術諸活動を通じて、日本人の米に関わってきた生活習慣や農業の祝祭、その精神的な支えとなってきた自然の「氣循環」を紹介した。

2016年は、二本松を中心に、新しく始動した「重陽の芸術祭」とともに、福島市、郡山市のアート活動と共催で開催した。テーマは「氣 indication」。気配、生と死の意味、「重陽」の意味を内包した。

9月9日の「重陽の節句」は、日本酒に菊を浮かべて不老長寿を願う「長寿の節句」となる。菊を眺めながら宴を催し、菊を用いて厄祓いや長寿祈願をする「重陽の節句」は、五節供（他に1月1日、3月3日、5月5日、7月7日）の中で最も重要な日であった。

二本松城（霞ヶ城）は全国一の規模をほこる菊人形祭が開催されており、菊は古来より薬草としても用いられ、延寿の力があるとされてきた。菊は他の花に比べて花期も長く、日本の国花としても親しまれている。

日本一の「菊人形祭」とその会場となる二本松城（霞ヶ城）に関わる文化資料の他に、二本松には、安達が原の鬼婆「黒塚」伝説の史跡や智恵子の生家がある。

「重陽の芸術祭」では、安達が原の鬼婆伝説、智恵子抄、菊と日本酒に関連させ、「長寿」をテーマに、ワークショップやシンポジウムを開催した。

さらに二本松は、東日本大震災と福島原子力発電所の被災地となった浪江町をはじめとし

た地域の避難所が多数設置されている。地域の人々との協働活動を軸に、新しい価値観を提供する機会と、子どもたちが地域文化に魅力を感じ、未来に向かって夢と活力を感じてもらえるような価値観を築いていくための一助として、本活動を展開した。

3. 研究計画

プログラムの選定・制作・進行などは、福島大学の教員・学生と福島県内の美術館、博物館の学芸員、各地域の協力者（二本松市役所、二本松振興公社の職員、地域住民など）と共同して考案した。市内小中学校への広報等も県や市の教育委員会の後援を依頼した。結果、本企画の活動を契機に、福島大学と地域とのつながりを強め、広く福島大学から発信する地域の文化活動を推進できた。

4. 実施概要

「福島ビエンナーレ2016」「重陽の芸術祭」

日 程：2016年9月9日~11月23日

開催時期：10月8日~11月6日

会 場：

*二本松市

- ・二本松市市民交流センター・市民ギャラリー
- ・二本松市大山忠作美術館
- ・二本松市歴史資料館
- ・福島県立霞ヶ城公園 二本松城本丸跡
「二本松の菊人形」
- ・福島県男女共生センター
- ・二本松工芸館
- ・国田屋醸造 千の花
- ・大七酒造
- ・二本松市智恵子記念館 智恵子の生家
- ・天台宗真弓山 観世寺
- ・安達ヶ原ふるさと村

- ・ 道の駅「安達」智恵子の里
- ・ 和紙伝承館

* 福島市

- ・ 福島大学
- ・ さくらんぼ保育園、さくらんぼ森合保育園
- ・ 踊屋台伝承館

* 郡山市

- ・ 富田幼稚園
- ・ 磐梯熱海